

SDGs実現に向けた文部科学省の取組

●
文部科学省国際統括官付
(日本ユネスコ国内委員会事務局)



目標4. すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

SDGsの達成に貢献する「持続可能な開発のための教育（ESD）」

持続可能な開発のための教育(ESD)とは

- ◆ 持続可能な社会づくりの担い手を育むため、現代社会における地球規模の諸課題を自らに関わる問題として主体的に捉え、その解決に向け自分で考え、行動する力を身に付けるとともに、**新たな価値観や行動等の変容をもたらすための教育。**
- ◆ 国際理解、環境、文化多様性、人権、平和等の個別分野を**持続可能な開発の観点から統合した分野横断的な教育。**

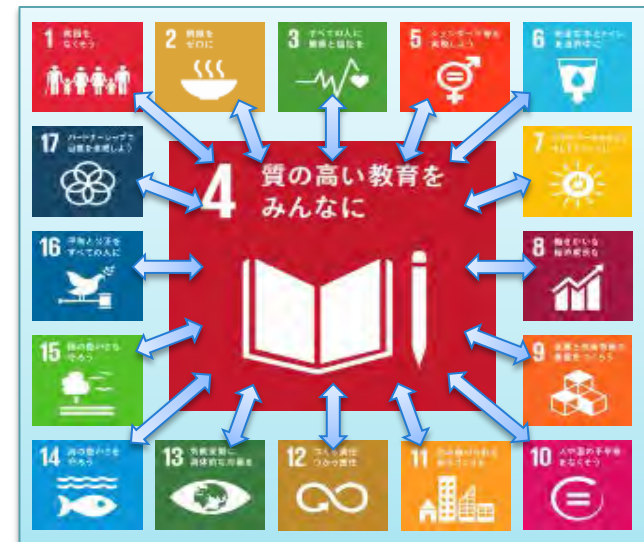


ESDは、**持続可能な社会づくりの担い手の育成を通じ、SDGsのすべてのゴールの達成に寄与**

2. 持続可能な開発のための教育は…(中略)…**質の高い教育に関する持続可能な開発目標に不可欠な要素であり、その他の全ての持続可能な開発目標の成功への鍵**であることを再確認する。
国連総会決議 A/C.2/72/L/45 (2017年11月)

【参考】SDGsのゴール4(教育)のうち、ターゲット4. 7

4.7 2030年までに、**持続可能な開発のための教育**及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。



ESDの推進に向けた日本の貢献

日本は、SDG4(教育)のリーディング・エージェンシーであるユネスコが主導するESD実施の枠組み作りにも積極的に参画し、国際的なESDの推進にも大きく貢献。

●国連ESDの10年(2005年～2014年)

●ESDに関するグローバル・アクション・プログラム (2015年～2019年)

→「国連ESDの10年」の最終年である2014年に、日本でユネスコ世界会議(あいちなごや会議)を開催し、「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」を正式に発表。

●ESD for 2030(2020年～2030年)

→来年から開始される新たなESD推進の国際枠組みであり、SDGsの達成目標年である2030年に照準を合わせている。**日本はドイツ、ケニアとともにローンチ国**となっており、今年秋の第40回ユネスコ総会及び第74回国連総会において、正式に採択。なお、9月5日には、日本でESD for 2030のプレローンチ会合を開催。



新学習指導要領や第3期教育振興基本計画における記載

ESDは、小学校から大学に至るまでのすべての教育段階において推進されており、新学習指導要領や第3期教育振興基本計画にもESDの目的である「持続可能な社会の創り手の育成」が掲げられている。

小中学校新学習指導要領(平成29年3月公示)

【前文】

これからの学校には、(中略)一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、**持続可能な社会の創り手となることができるようにする**ことが求められる。

【第1章 総則】

第1 小学校(中学校)教育の基本と教育課程の役割

3 (前略)豊かな創造性を備え**持続可能な社会の創り手となることが期待される**児童(生徒)に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、…総合的な学習の時間及び特別活動…の指導を通して、どのような資質・能力の育成を目指すのか明確にしなが、教育活動の充実を図るものとする。

第三期教育振興基本計画(平成30年6月閣議決定)

第2部 今後5年間の教育政策の目標と施策群

＜主として初等中等教育段階における＞

我が国が**ESDの推進拠点と位置付けているユネスコスクール**の活動の充実を図り、好事例を全国的に広く発信・共有する。また、(中略)**ESDの実践・普及**や学校間の交流を促進するとともに、**ESDの深化**を図る。これらの取組を通して、**持続可能な社会づくりの担い手を育む**。

＜主として高等教育段階における＞

地域の多様な関係者の協働による**ESDの実践を促進**するとともに、学際的な取組などを通じてSDGsの達成に資するような**ESDの深化**を図る。これらの取組を通して、地球規模課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む態度を身に付けた**持続可能な社会づくりの担い手を育む**。



ESD推進拠点としてのユネスコスクール

文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置付け、その活動に対する支援等を行っている。

ユネスコスクールとは？

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校であり、ユネスコが加盟承認する。現在、世界182の国・地域で11,000校以上のユネスコスクールがあり、日本国内の加盟校数は1,120校(2019年11月現在)で世界最多。

日本全国:1,120校

幼稚園21, 小学校554, 中学校279,
中高一貫校等60, 高校156, 大学5,
高等専門学校1, 特別支援学校12, その他32

近畿地区:141校

幼稚園5, 小学校52, 中学校26,
中高一貫校等13, 高校33, 大学2, その他10

中国・四国地区:178校

幼稚園1, 小学校92, 中学校39,
中高一貫校等9, 高校32,
特別支援学校2, その他3

九州地区:69校

小学校32, 中学校22,
高校12, 特別支援学校1, その他2

北海道・東北地区:162校

幼稚園8, 小学校77, 中学校42,
中高一貫校等4, 高校25, 大学1,
特別支援学校1, その他4

北陸地区:119校

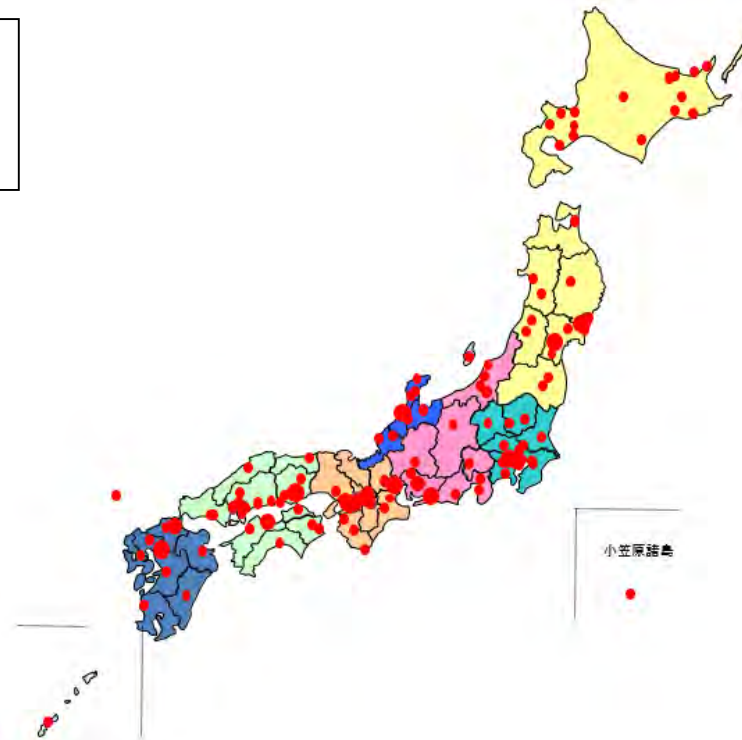
小学校84, 中学校32,
高校2, 高等専門学校1

関東地区:173校

幼稚園2, 小学校75, 中学校38,
中高一貫校等26, 高校22,
特別支援学校2, 大学1, その他7

中部地区:278校

幼稚園5, 小学校142, 中学校80,
中高一貫校等8, 高校30, 大学1,
特別支援学校6, その他6



参考:ユネスコスクール数の推移 (単位:校)

1956 年度	1960 年度	1965 年度	1970 年度	1980 年度	2000 年度	2005 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
6	27	22	25	21	20	19	24	78	152	277	367	550	705	913	939	1008	1034	1116	1120

ユネスコスクール等における実践例 (令和元年11月30日 第11回ユネスコスクール全国大会)

課題解決的学習

限られた資源の活用や、地域間の紛争など、クライシス(課題)が次々と出され、生徒たちがそれぞれの立場で交渉しながら解決を模索する教育型シミュレーション「ワールド・ピース・ゲーム」に参加した広島県の中高生4名が登壇しパネルディスカッションを実施。自身の経験を基に、国際関係についての考えや、自身のキャリアとのつながりについて語った。



3つの柱 その1

ESDで育む資質・能力・行動の変容

ESDを通じて育みたい資質・能力の評価のため、ルーブリックを作成。生徒自身が目標の到達度合いを具体的に確認しつつ、今後の取組の方向性を確認できるようにしている。

年に3度評価
(春、秋、冬)

	1年	2年	3年
レベル 記入欄	春		
	秋		
	冬		
(2) 項目			
本人	1年	組	番

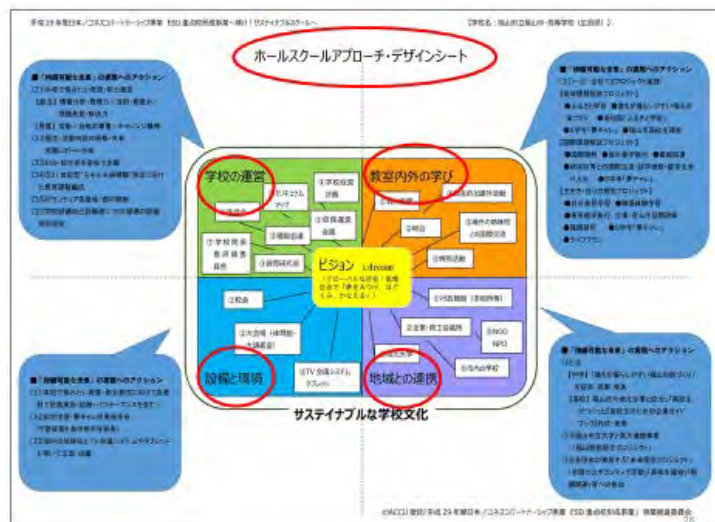
本校で 育みたい 「3つの 能力」と 「3つの 資質」	①情報整理力	
	◆課題解決や新しい価値を創造するために必要なデータや情報を分析・整理することができる。	
レベル 1	□テーマに関して与えられたデータや情報を <u>おおよ</u> 理解できる。	
レベル 2	□テーマに関して与えられたデータや情報の要点を <u>正確</u> に理解し、 <u>人に説明</u> することができる。	
レベル 3	□与えられた情報に加え、テーマに関連するデータや情報を <u>自分で</u> 書籍やネット等で検索し <u>おおよ</u> その特徴を理解できる。	
レベル 4	□既存の情報と自分が集めたデータや情報を見て特徴を <u>正確</u> に理解し、その資料を「 <u>分類・比較・対比</u> 」などとしてまとめられる。	
レベル 5	□課題解決や新しい価値を創造するために効果的な資料を <u>複数</u> 集め、 <u>正確</u> に分析・整理し、「 <u>分類・比較・対比</u> 」に加え「 <u>予測・提案・創造・発明</u> 」などとして <u>新しい情報</u> を生産している。	

ユネスコスクール等における実践例 (令和元年11月30日 第11回ユネスコスクール全国大会)

3つの柱 その2

カリキュラム・マネジメントと ホール・スクール・アプローチ

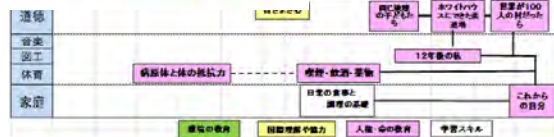
教職員や地域と共通理解を図るための工夫をしながらカリキュラムをデザインしたり、教科横断的な学習指導のイメージマップとしてのESDカレンダーを作成したりするなど、教科横断的かつ学校全体で「持続可能な社会の創り手」の育成に向けたカリキュラムを編成・実施している。



3つの柱 その3

地域とともにある学校と ユネスコスクール

身近な地域課題の発見を目指して、小学生、高齢者、車いす利用者、外国人等になりきり、朝、夜、雨等の状況を想定したフィールドワークを実施、「自分ごと」としての解決策の提案を行っている。



独立行政法人国立女性教育会館（NWEC）によるSDG s の取組



地域における男女共同参画推進リーダー研修 〈女性関連施設・地方自治体・団体〉の実施

◆趣旨

地域的女性関連施設、地方自治体、団体等を対象に、地域の男女共同参画を推進するリーダーとして必要な専門的知識、マネジメント能力、ネットワークの活用能力等を向上を図る。

◆実施概要（2019年度）

【テーマ】男女共同参画推進に向けた取組とSDG s

【期間】2泊3日

【参加者数】157名（女性 135名、男性 22名）

【内容】

①事前学習

男女共同参画の基礎知識を学ぶeラーニング講座を提供。

②1日目

・基調講演「男女共同参画の歩みとこれから」

男女共同参画社会基本法成立から20年の歴史を振り返りつつ、GGGI、国内データ等を基に日本の性別格差の現状を把握し、取り組むべき課題について認識を共有。

・施策説明（厚生労働省、内閣府、文部科学省）

最新の政策や取り組むべき課題について説明。

③2日目

・パネルディスカッション「メディアとアンコンシャスバイアス」 メディア制作・編集者の視点からの男女共同参画とメディアの関係について議論。

・テーマ別/コース別分科会

参加者の活動現場における課題解決に向けた取組についてのグループワークを実施。

2020年度はオンライン開催

アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーの実施

◆趣旨

開発途上国において、男女共同参画の政策策定及び政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者、NGOのリーダーを対象に、女性の能力開発に係る課題解決の方策を検討する。

◆実施概要（2019年度）

【テーマ】ジェンダー視点に基づくSDG s（持続可能な開発目標）の達成

【期間】4泊5日

【参加者数】10名

（カンボジア、インドネシア、韓国、ミャンマー、ベトナムより各2名）

【内容】

①前半

・カントリーレポートの報告

参加国におけるSDG s 推進に係る好事例と課題について意見交換。

・講義、ワークショップ

ジェンダーに配慮したSDGsの実践事例について学習。

②後半

・スタディーツアー（札幌）

SDGsの推進に取り組んでいる企業や団体を訪問。

＜訪問企業・団体＞

株式会社丸吉日新堂、アンビシャスファーム株式会社、
札幌市男女共同参画センター



カントリーレポートの報告

2020年度は中止

パッケージ貸出サービスの提供

○女性教育情報センターの所蔵図書を、様々なテーマに合わせてまとめて貸出しを行うサービスを提供。

○SDG s をテーマに含めた図書の提供

①個別パッケージ：イベント、授業とのタイアップ等、テーマに合わせて一定期間、図書を貸出。

（例）長岡技術科学大学（2020年6月～8月）：「SDGs、ジェンダー、セクシュアリティ、男女共同参画」（100冊）

②年間パッケージ：NWECで選定したテーマに沿った図書を一定期間、まとめて貸出。（20テーマの内、SDG s を含むテーマは3テーマ）

・「SDG s、男性性、家族、しごと、生活」（100冊）

・「女性史、SDG s、しごと、こころのケア」（100冊）

・「SDG s、家族、生き方、メディア、理科系」（高校・高等専門学校向け）（100冊）